

ヤンゴンでも「畑」をつくってます！

みなさんこんにちは。師走に入り一気に忙しくなってきましたね。こちらも毎日忙しい日々を送っています…と一言から始まってしまいますみません。「毎月頭発行」をうたいながら、こんなにも発行が遅れてしまいました。実は本当に仕事が立て込んでいて、11月末に3号で紹介した「宿泊体験学習（日本の修学旅行）」が終了。その後生徒が音楽祭に合唱で出演するため歌唱指導したり（本番アクシデントで指揮もすることに…）、ゲストティーチャーを招いての授業&フィールドワークが2本、そして極めつけに2学期期末テストで理科&技術計6枚のテスト作成&採点→得点通知表作成→2学期通知表作成と成績関係処理に追われ、明日からは個別懇談（日本の家庭訪問に代わり保護者が来校して面談する）がスタートします。つまり毎日仕事に追われていて、この原稿まで手がまわりませんでした。やってもやっても仕事は来ますが、あと2週間で冬休み！そこを目指して頑張ります。



さてそんな日々ですが、12月ということで街には「クリスマス」ムードが漂い始めました。我が家の近所のショッピングモールもこんな（→）感じです。なんと季節を感じますが、今朝の我が家の前の風景はこちら（↓）！骨の髄から「クリスマス=冬」な北海道民の私なので、



輝く太陽、そして透き通る青い空にヤシの木のクリスマスにとても違和感があります。みなさんには怒られそうですが、北海道の雪と寒さが恋しいです。

というわけで、こちらは何となく雨季が明け乾季が始まりました。世界的な異常気象が叫ばれていますが、ここヤンゴンもその影響があったようです。いつもであれば10月に終わる雨季が今年は11月末まで降っていました。それでも雨がなくなったので、中学2年生（=私の学級）とともに技術科で「栽培の授業」を行いました。学校敷地内に畑を作るスペースはありませんので、学校近所の日本企業に土地をお借りし、そこで路地栽培をしています。けれども、これがなかなか一筋縄ではいきません。北海道がいかに農業に適した土地か思い知らされました。

畑の土は「団粒構造」という状態になっているのが望ましいです。つまり土の粒だけではなく、落ち葉や堆肥などの有機物と土の粒が団子状になっている状態です。ところがヤンゴンの土壌はそもそもが砂〜シルトと粒子が細かく、そして落葉しても雨と共に表土が削れて流されてしまうため、全く団粒構造になっていない状況です。そこでまずは「土づくり」。畑に大きな穴をあけ、そこに大量の落ち葉や草刈りで出た草を投入。土をかけて3週間ほど放置しました。常に気温が高い土地なので、土中細菌&小動物のはたらきは極めて活発。3週間でもかなり分解され土とも馴染んだため、そこから土を耕し、堆肥を混ぜ込みつつ畝たて。たてた畝にマルチシート（なかったので黒いゴミ袋を長く切って代用）をかけ、播種する箇所だけに穴をあけて種まき…という流れで実践してみました。マルチシートは北海道では地温上昇（畑の地面の温度を上げる）が主な目的で使用しますが、今回は①水分の保持（乾季で雨が降らないので土中の水の蒸発を防ぐ）②雑草の予防（光を遮断して雑草を防ぐ）そして③害獣対策（ネズミがどこにでもいる土地なので、植えた種を掘り返して食べられないようにするため）の3点で今回は使用しています。果たして吉と出るか凶と出るかはこれから見てみないとわかりません。初めての本格的な農作業に生徒たちは悪戦苦闘してしま



の世話をしていきます。初めての試みなので不安もありますが、生徒と一緒に頑張ります。

それではまた次回、こちらでの様子を報告します。